

きみに

幸せなときには
思い出せない
かけがえのない存在を
いまさらのようにかみしめていた

喜びを分かちあえる友達は
たくさんいたとしても
悲しみをも分けあえる友達が
僕には何人いるのだろうか
かつて

挫折した思いを
うちあけ合えた友達がいたのだろうか
一人だけの苦しみを

まるで
二人の苦しみのように
答えのない時間を
共に過ごし
悩み
励ましあえることに
激しい
勇気すら予感した

僕達はお互い
この世の中でひとりきりなのに
だけど
ひとりじゃない
ささえ
かつてささえられた事実が

いつの日も力となって
たえず僕の胸をたたき続ける
思い起すたびに新しい
この新鮮な思いを
逆る情熱と共に
なんとしても 今
君に伝えたい

君にありがとう
そして

君を

僕の友達と呼ばせてほしい
二人では苦しくとも
ひとりではたどりつけない

君を

僕の友達と呼ばせてほしい
変わらぬ思いを
この言葉に満たして
僕を

君の友達と呼んでもらいたい